

# はれぞら通信 vol. 3

～ 栽培後期編：2月～6月頃まで ～

この度は、当社大玉トマト「はれぞら」をご利用ご愛顧頂き誠にありがとうございます。  
本誌では、「はれぞら」を栽培する皆様にとって役立つ情報を3回にわたってお届けしております。

今回、第3回目の vol.3 では、厳寒期を超えて春夏の高温期に向かう栽培時のポイントを中心に  
ご紹介致します。引き続き、vol.1、2 と併せてご愛読頂けましたら幸いです。

目次

## はれぞらの特長

### 栽培時のポイント

- ✓ 栽培後期の管理のポイント <2～3月>
- ✓ 栽培後期の管理のポイント <3～6月>
- ✓ 黄変果について
- ✓ 栽培後期に注意する病害



## はれぞらの特長

- ✓ 黄化葉巻病耐病性  
イスラエル、マイルド両系統に対して安定した耐病性を持つ
- ✓ 草勢が強め  
草勢が強く、越冬後も安定
- ✓ 早生  
早生性でコンスタントに収穫
- ✓ 肥大性が良い  
大きな果実で収量を確保
- ✓ 食味と硬さの両立  
果実が硬く輸送性や店もちに優れ、食味食感も非常に良い

## 栽培時のポイント

### ✓ 栽培後期の管理のポイント <2~3月>

- 気温の上昇に伴い収穫のサイクルも早くなってくるため、追肥や灌水のタイミングが遅れないように注意する。
- 少量多回数での灌水管理を心掛ける。ハウス内の湿度が高い状態で一度に大量の灌水を行うと、シモフリ果や軟化果を助長する。
- 早朝加温を行うことで、果実表面の結露やハウス内温度の急上昇を避け、ガサ玉の発生を抑える。
- 従来よりもカリウムに対する要求度が高い品種のため、カリウムの追肥は2割前後多めに施用する。

### ✓ 栽培後期の管理のポイント <3~6月>

- 日中にハウス内が高温になりすぎないように適宜換気を行い、しおれの発生を防ぐ。
- ホルモン処理を行う場合は、早生で花数が少なめの品種であることに注意し中 3~4 日程度で回るとよい。
- ホルモン濃度を濃くしすぎると、先尖りや乱形果を助長するため、気温の上昇に従って濃度を薄めていく。
- 日射が強まってくると、葉面積が大きい方が有利となる。草勢が弱く果実が露出してしまう場合は、側枝を利用し葉面積を増やす。
- 強草勢の品種であるため、摘芯後の定期的な追肥は控え着果負担に応じた肥培管理を心掛ける。過剰に追肥を行うと、小玉果や品質低下を招く恐れがある。

### ✓ 黄変果について

- 日照量が増える時期に、果実の肩の部分が黄色くなり商品価値を低下させることがある。
- 果実のグリーンショルダー部分の葉緑素が分解されず、赤く着色しないことで発生する。
- 果実の表面温度が上がりすぎると、およびカリウム欠乏が要因となる。



## ✓ 黄変果の対策

- 果実に直射日光が当たる場合は、側枝でリーフカバーを作ることによって予防できる。
- または、日中の遮光により果実に直射日光が当たることを避ける。
- 下葉欠きや摘葉を控えめにし、収穫最終段よりも1段高い節位で摘芯することで葉面積を確保する。



黄変果



果実が露出する場合、遮光することが望ましい



葉面積を維持できている

## ✓ 栽培後期に注意する病害

- 栽培後期には株疲れしやすくなるため、各種病害の発生リスクが高まる。
- 日射が増え、やや乾燥する機会が増えると、うどんこ病の発生が増える。
- 栽培中期と同様、葉先枯れからの灰色かび病の発生には注意が必要となる。
- 黄化葉巻病に耐病性であるが黄化病の耐病性はないため、コナジラミの防除を徹底する。



発生初期のうどんこ病



黄化病



F1 はれぞら



みかど協和株式会社

発行 みかど協和株式会社 国内営業本部開発普及部 <http://www.mikadokyowaseed.com>

PDF 版はこちらからダウンロードできます